

教務主任としての業務

茂呂良彦

1 教務主任の業務

教務主任は、教育に関する業務の「連絡と指導」が中核的な業務になる。「連絡と指導」を当校における業務に具体化すると、以下のようになる。

- (1) 教育課程の企画と運用
- (2) 教育活動に対する指導助言
- (3) その他もろもろ

どの仕事も重要度において変わりはないが、最も大きな量を占めるのが、(3)の「その他もろもろ」である。昨年度はここに忙殺されて、他の業務が滞りがちになった。そこで、今年度は、全体のレベルを下げることなく、(1)と(2)に重点的に取り組めることを念頭に置いて仕事に取り組んだ。

2 教育課程の企画と運用

教育課程企画と運用の実際は、教育計画と年間行事予定・月予定・週予定・校時表に現れる。ここに学校の教育課題を解決するための取組を、どのように組み込んでいくかが教務主任の最も重要な仕事と言える。

(1) 行事予定作成の効率化

教育課題を解決するための取組のレベルを上げるためには、時間の余裕が必要である。そこで、年間行事予定・月暦・週暦を短い時間で緻密に立てられるように、表計算ソフトで予定表作成をできるようにした。

このことで、日々の文書処理で入力したものが自動的に行事予定に反映され、提出期限のチェックも同時にできるようになった。また、同じ入力を繰り返すこともなくなり、予定の変更にも柔軟に対応できるようになった。さらに、数週間先の週暦も出力することができ、日程を早めに提示することができた。<http://www.inet-shibata.or.jp/~moro/>

(2) 学校の教育課題を解決するための取組

当校の最大の教育課題は、「学力の向上」である。そして「学力の向上」を支えるものとして、「やさしいこころの育成」と「生活習慣の改善」が挙げられる。

学力の向上に関して

当校の学力実態は、高い数値を示す児童と低い数値を示す児童との差が大きいということである。このような実態であるとき、学力を向上させるポイントは二つある。一つは、下位層の児童の得点向上である。もう一つは、「わかることは楽しい、できることはうれしい」という児童を増やして

いくことである。

このために、次のような取組をしている。

- ・ 学力向上のための取組の中核となって機能する「知育部」を位置付け、知育部で重点項目を設定し、全校体制で取り組んだ。
- ・ 週に1回、「個に応じた学習」ができる時間を校時表に位置づけた。
- ・ 高学年児童の算数指導を、1年間、全て少人数指導で行った。
- ・ 朝学習にチャレンジ計算タイムを位置付けた。
- ・ 毎月1回、全校計算テストと全校漢字テストを行い、基礎学力の徹底を図った。

やさしいこころの育成

当校の児童には、軽度発達障害の児童や、該当するのではないかと予想される児童がやや多く、特定の学年にそのほとんどが集中している。そのため学習時に落ち着かない雰囲気が生じることや、高学年がリーダーシップをとる場面のある活動がスムーズに進行しないことが予想された。そこで、今年度は縦割り集団活動を充実させることにした。

- ・ やさしいこころ育成のための取組の中核となって機能する「徳育部」を位置付け、中心になって全校体制で取り組んだ。
- ・ 1年を前・後期に分け、毎月1回、清掃時間を使って構成的グループエンカウターの手法を中核にした活動「みねっ子タイム」を行った。
- ・ 学校行事「全校登山」を縦割り活動の中核として位置付けて事前・当日・事後の活動に取り組ませた。
- ・ 縦割り班で「あさがお栽培に」取り組ませた。
- ・ 軽度発達障害に関する研修会を開催した。また、日常的な情報交換が行われるような雰囲気づくりを行った。

生活習慣の改善

学力向上のためには、児童の生活習慣を改善することも重要である。朝、あくびばかりしていたり、朝食を摂らずに濁った目つきをしていたりしては、学習の効率は悪くなるばかりである。生活習慣を改善することで、学力向上につなげることができる。

- ・ 食事・睡眠・運動に関する生活習慣調査を行い、集計結果から、望ましい生活習慣として早寝早起き（睡眠時間の確保）を設定した。
- ・ 朝の学級活動、保健指導、校内掲示を通して児童へ働き掛けた。たよりを通して保護者への情報提供と啓発活動を行った。

3 教育活動に対する指導助言

教育活動全般について、起案方式を採っている。昨年度の反省を受けた改善点はどこか、新しい提案が入っているかという視点で見るとしている。また、校外に出る文書については字句のチェックを念入りに行っている。これらの視点で見ると示しているのも、担当からはどこが変わったのか、どこが新しいのか、という観点で説明を受けることができるようになってきた。しかし、職員会議での提案の仕方は、まだポイントが絞り切れていない。今後の課題である。

学級経営の反省が毎学期に提出されてきたが、校長の指導を受けて、単に配布するのではなく、それらの中から全職員で共通に使える内容を抽出して再構成して配布するように改めた。

4 今後の課題

全職員の意向を大幅に聞き取りながら調整し、まとめていく「メンバーシップ中心のリーダー」としての教務主任を目指していきたい。